

【水の里の旅コンテスト2015 応募企画】

特定非営利活動法人 最上川リバーツーリズムネットワーク

絶景・三淵渓谷通り抜け参拝
～水神様を訪ねるリフレッシュの旅～

観光地域名：山形県長井市

【日程】	日帰り、1泊2日		
【実施時期】	春・夏・秋		
【催行人員】	名（最少催行人員：名）	【お勧めする旅行者層】	小学生から80代までの男女
【旅行代金】	参加協力金(乗船料)として 2000円 (大人1名)	【内訳】	
【企画趣旨】			
<p>平成23年に完成した長井ダムは最上川水系置賜野川に築かれた堤体の高さ125.5m、堤頂長308mで東北有数の直轄ダムです。しかも長井市の中心部（市役所）から約9kmの距離にあり、まさに町場のダムといえる。上流には人家がなく、全集水域が花崗岩からなる水は清冽で水質が極めて良くダム湖（ながい百秋湖）の透明度は5mを超える。この水は市街地を縦横に走る水路に引き込まれ市民生活を支えており、その伏流水は水道水として各家庭に配られ、さらに「長井花のしずく」の名称でボトルウォーターとして市販されている。</p> <p>さらに市街地周辺部の水田はもちろんのこと遠く県都山形市周辺部水田の灌漑用水として広範囲に供給されている。このダム湖の最上流にあたる三淵は幅4～5mで高さ50mに達する断崖が両岸に切り立って250mも続く。しかも水深は15mもあり、その神秘さゆえに水神様の産土淵として古くから地域より信仰されてきた。また1000年前の前九年の役に関わる卯の花姫伝説が伝わり、その化身である竜神は三淵から下向して黒獅子舞として長井市をはじめ1市4町におよぶ多くの神社に伝わっている。各例大祭のときは神輿や高張提灯とともに笛太鼓の囃しに合わせて各氏子の家々を練り歩く。これまで三淵は修験の場でもあり、その陰しさのため足を踏み入れることができなかった。しかし長井ダムの完成により、船で容易に行けるようになった。そこで水を汚さない電動エレキ船外機をつけたレスキュー用ゴムボート（5～6人乗り）で三淵を抜けながら参拝する企画を26年度から実施してきた。時速6～7kmで湖面を滑るように走るゴムボートによる1時間の船旅は安定して揺れが全くなく、北は岩手県から南は滋賀県までの県外各地から訪れた参加者の全ての方が他の観光地を凌ぐ自然景観に酔いしれて感動していただいた。まさに水の里を標榜する長井にとってシンボリック的存在になっている。</p>			
【安全確保のための配慮】		【旅行者の満足感を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】	
<p>使用するゴムボート（現在4艘）はすべてレスキュー用であり日本小型船舶検査機構の船舶検査を受けている。さらに船客傷害賠償責任保険（1名あたり5000万円、救助費用180万円）に加入のほか全員にライフジャケット着用を実施したうえで注意事項を周知している。船頭は小型船舶免許の他に客船操縦資格の特定を保持。運輸局やダム管理者に届け出の上実施している。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● 渓谷が深く断崖が続く圧倒する景観は、屋形船のような屋根のある船では充分味わうことができないためレスキュー用ゴムボートを使用し、クッションの良い椅子に腰かけて乗船してもらう。 ● ガイドはボイスレコーダーとボートに設置したスピーカーにより音声ガイドを行なっている。 ● 雨天の時は、ボートに常備している雨具を着用してもらう。 	
【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】	【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】
① 長井市	施設の管理を委託（建物）	⑤	
②		⑥	
③		⑦	
④		⑧	
【特記事項】	NPOの最上川リバーツーリズムネットワークが始めた当企画が水の長井に相応しい企画として、市政においても地域資源を活用する様々なプロジェクトのメインに位置付けて検討を実施している。そして地域再生の一翼を担う事業に発展させる計画が進行中である。		
【催行実績】	有り		

